

2023 年度 第 2 回 9 月名大本番レベル模試 地理 採点基準

■ 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

■ 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

■ 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 問につき 1 点減点。
- ③ 指定語句不使用は，指定語句 1 つにつき 1 点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

■ 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

■ 設問別加点基準

- 1) _____ 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。

問題 I

問 1(2) 12 点

※ 【指定語句】 海洋プレート 境界 大地溝帯 3つ全て 下線付きで使用

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。
下線の付け忘れは、複数あっても「1 問につき 1 点」のみ減点する。

A, C, Dはプレートの狭まる境界で、大陸プレートの下に沈み込む海洋プレートの上面に生じたマグマが上昇して供給され、Bは広がる境界のでき始めている大地溝帯でマグマが上昇して供給される。

【加点ポイント】

i) 1つ目のしくみについて (6 点)

①<2 点> 【場所について】

○狭まる境界である／収束型境界である

②<1 点> 【含まれる場所の記号】

○A, C, D (全部そろって 1 点)

③<2 点> 【マグマ供給のしくみ 1】

○大陸プレートの下に海洋プレートが沈み込む (潜り込む)

④<1 点> 【マグマ供給のしくみ 2】

○③の上面 (境界面) に生じたマグマが上昇する

ii) 2つ目のしくみについて (6 点)

⑤<2 点> 【場所について 1】

○広がる境界である／発散型境界である

⑥<1 点> 【場所について 2】

○大地溝帯である

⑦<1 点> 【含まれる場所の記号】

○B (※他の記号がある場合は加点しない)

⑧<2 点> 【マグマ供給のしくみ】

○プレート境界にマグマが上昇する

／離れる 2 つのプレートのすき間を埋めるようにマグマが上昇する

問 2 12 点

(ア) は頂上標高 3776m に対して凹地の比高が 200m 程度と小さく、凹地内の等高線が同心円状になっているので、成層火山の火口である。(イ) は頂上標高 775m に対して凹地の比高が 500m 以上と大きく、凹地の底面の形状が複雑でいくつもの噴火口がみられることから、カルデラ状の陥没である。

【加点ポイント】

i) (ア) について (6 点)

①<2 点> 【みられる地形について】

○成層火山の火口／噴火口／火山の火口

②<4 点 (2 点×2)> 【地形の特徴】

○凹地の比高が小さい／凹地の窪みが深くない →2 点

○凹地の内側の等高線が同心円状である／凹地の内側が逆円錐形である →2 点

ii) (イ) について (6 点)

③<2 点> 【みられる地形について】

○カルデラ状の陥没／カルデラ／火山の噴火により陥没した巨大な凹地

④<4 点 (2 点×2)> 【地形の特徴】

○凹地の比高が大きい／凹地の窪みが (ア) に比べて深く大きい →2 点

○凹地の底面の形状が複雑／凹地の底面に複数の噴火口がみられる →2 点

問 3(1)理由 8 点

カは偏西風帯で風況が安定し、地形が平坦なヨーロッパ諸国が多い。クは火山活動の盛んな変動帯に位置する国が並んでいる。

【加点ポイント】

i) (カ) について (4 点)

①<2 点> 【発電国にみられる特徴】

○ヨーロッパ諸国が多い

②<2 点 (1 点×2)> 【①の自然環境】

○偏西風帯である →1 点 (「偏西風」を指摘していれば加点)

○地形が平坦である／平野や丘陵が多い →1 点

ii) (キ) について (4 点)

③<2 点> 【発電国にみられる特徴】

○変動帯に位置する／新期造山帯に位置する

④<2 点> 【③の自然環境】

○火山活動が盛ん／火山が多い

問 3(2) 4 点

美しい景観と温泉を利用した観光業。

【加点ポイント】

①<2 点> 【発達する産業】

○観光業／観光産業

△ホテル／旅館／宿泊業など観光業に含まれる個別の業態 →1 点

②<2 点 (1 点×2)> 【①の発達の背景】

○美しい景観 (風景／景色など) →1 点

○温泉 →1 点

問 4 10 点

火砕流などで植生の失われた上流からの土石流に備えて、雁行状に並べた堤防によって流れの勢いを抑えつつ、堤防間の中央に流れを誘導する。

【加点ポイント】

①<3 点> 【災害の種類】

○土石流 →3 点

×火砕流／洪水

②<3 点> 【防災施設の特徴】

○雁行状に並べた堤防／不連続の (切れ目のある) 堤防／霞堤

③<4 点 (2 点×2)> 【②の役割】

○流れの勢いを抑える／土石流を弱める／土石流の一部を堤内に溢水させる

○堤防間の中央に流れを誘導する／土石流が流れる方向を制御する

問題Ⅱ

問 1(2) 6 点

西アジアの観光・交通・金融の拠点としてドバイに国際ハブ空港が整備されたため。

【加点ポイント】

①<2 点> 【航空輸送量が多い理由】

○ハブ空港が整備された (建設された／開港した)

②<2 点> 【①の所在都市】

○ドバイ

③<2 点> 【①の影響】

○西アジアの交通 (観光・金融) の拠点 (要地) となった

／世界の主要都市と航空ネットワークで結ばれた

／ヨーロッパとアジアやアフリカなどとの乗り換え (貨物の積替え) 拠点として発展した

問 1(3) 6 点

※ 【指定語句】 都市間 フランクフルト ハブ 3 つ全て 下線付き で使用

☆☆ 指定語句不_レ使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。
下線の付け忘れは、複数あっても「1 問につき 1 点」のみ減点する。

F 国内の都市間移動では新幹線の利用度が高く、国際線では E のフランクフルトのような周辺地域のハブとなる空港が発達していない。

【加点ポイント】

①<2 点> 【F 国内の旅客について】

○都市間移動では新幹線の利用度が高い／国内の旅客（都市間の移動）は鉄道の利用が多い

②<2 点> 【E の航空旅客が多い理由】

○フランクフルトのような国際ハブ空港が発達している

／フランクフルト空港がヨーロッパの地理的な中心に位置し国際線の旅客の利用が多い

／フランクフルト空港はハブ空港として E U 内の都市間移動の中心的役割を担う

③<2 点> 【F の航空旅客が少ない理由】

○国際ハブ空港が発達していない／成田空港はハブ空港としての地位が低い

問 2(2) 10 点

1960 年代に石油資源を巡る民族対立を背景に内戦が発生したため、民族間の融和を図る目的で、沿岸部のラゴスから国土の中央部のアブジャへ首都を移転した。

【加点ポイント】

①<2 点> 【旧首都名 (A1)】

○ラゴス

②<2 点> 【新首都名 (A2)】

○アブジャ

③<2 点> 【遷都の契機】

○民族対立／内戦／ビアフラ戦争／イボ人とハウサ人・ヨルバ人との対立

④<2 点> 【③の内容】

○石油資源を巡る対立／石油資源を持つイボ人が独立を宣言した

⑤<2 点> 【③に遷都した理由】

○国土の中央部に位置する／主要民族の境界付近である

問 2(3) 12 点

二大都市は英語圏の中心であるトロントとフランス語圏の中心であるモントリオールで、首都のオタワは両言語文化圏の境界に位置する。

【加点ポイント】

①<2 点> 【首都名 (D1)】

○オタワ

②<4 点 (2 点×2)> 【二大都市の 1 つめ】

○トロント →2 点

○英語圏の中心／英語圏の最大都市 →2 点

③<4 点 (2 点×2)> 【二大都市の 2 つめ】

○モントリオール →2 点

○フランス語圏の中心／フランス語圏の最大都市
／フランス系住民が多いケベック州の最大都市 →2 点

→ (※「州都」とした場合は△1 点)

④<2 点> 【①を首都とした理由】

○両言語文化圏の境界に位置する／英語圏とフランス語圏の境界である

問 2(4) 10 点

ブラジルでは人口や産業が南東部の沿岸部に集中し、他地域との経済格差が課題となっていた。そこで、北部や内陸部の開発を進めるために新首都であるブラジリアが建設された。

【加点ポイント】

①<2 点> 【新首都名 (E1)】

○ブラジリア

②<4 点×2> 【遷都の背景】 (リオデジャネイロ・サンパウロなど)

○人口や産業が南東部の沿岸部に集中していた

／人口などの沿岸部一極集中を緩和するため

／発展した沿岸部と内陸部とで経済格差があった →4 点

○内陸部（や北部）の開発のため →4 点

問 2(5) 16 点

この地域では地価の上昇や居住環境の悪化によりドーナツ化現象が進行して人口が減少すると共に、年少人口の割合の低下と老年人口の割合の上昇が進んだ。しかし、1990 年以降はバブル経済崩壊後の地価下落によって都心付近で高層マンションをはじめとする住宅の供給が増え、価格も下がったため、人口の都心回帰が進み、2000 年以降は人口が増加に転じた。

(次ページに続く)

【加点ポイント】

i) 1960～1990 年まで (8 点)

①<2 点 (1 点×2)> 【人口の推移】

○人口が減少した／人口が郊外に流出した →1 点

○年少人口の割合の低下と老年人口の割合の上昇が進んだ／少子高齢化が進んだ →1 点

②<4 点 (2 点×2)> 【①の背景】

○地価の上昇 (高騰)／家賃 (住宅価格) の上昇 →2 点

○居住環境の悪化／過密／騒音 →2 点

③<2 点> 【この時期の現象として】

○ドーナツ化現象

ii) 2000 年以降 (8 点)

④<2 点> 人口の推移

○人口の都心回帰が起こった →2 点

△「人口が増えた」のみ →1 点

⑤<6 点 (2 点×3)> 【④の背景】

○バブル経済の崩壊／バブル崩壊 →2 点

○地価の下落／住宅価格 (家賃) の下落 →2 点

○住宅の供給が増えた／高層マンションなどが増えた

／ウォーターフロント開発 (都心の再開発) が進んだ →2 点

問題Ⅲ

問 1(2) 8 点

民族分布と無関係に引かれた植民地の境界線を国境としたため、複数の民族間の意思疎通や対立防止のため旧宗主国の言語を公用語としている。

【加点ポイント】

※問 1(1)の正否は問わない。

①<2 点> 【B,C の言語について】

○旧宗主国の言語である

②<2 点> 【アフリカ諸国の国境の特徴】

○植民地の境界線を国境とした／旧宗主国 (ヨーロッパ諸国) が決めた国境線である

③<2 点> 【②の特徴】

○民族分布と無関係である／民族分布を無視している

／一国内に複数の民族が共存する／一民族が複数の国にまたがる

④<2 点> 【①を公用語とする理由】

○複数の民族間の意思疎通のため／民族間の対立防止のため

問 1(3) 8 点

※ [指定語句] 季節風 交易 ムスリム商人 3 つ全て 下線付き で使用

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。
下線の付け忘れは、複数あっても「1 問につき 1 点」のみ減点する。

東アフリカには、季節風を利用したインド洋交易で多くのムスリム商人が訪れた。そのため、在来の言語がアラビア語の影響を受け、スワヒリ語が成立した。

【加点ポイント】

※問 1(1)の正否は問わない。

①<3 点> 【D (スワヒリ語) の成り立ち】

○在来の言語 (バントゥー諸語) がアラビア語の影響を受けた / 民族言語にアラビア語が混じった
(※「アラビア語」が無ければ加点しない)

②<2 点> 【①の背景】

○ムスリム商人が訪れていた / ムスリム商人との交易があった

③<3 点> 【②の来訪方法】

○季節風を利用したインド洋交易 / 季節風を利用した貿易船であった
 / (ムスリム商人が) 北東季節風を利用した船で訪れ南西季節風を利用した船で帰っていた
(※「季節風」と「インド洋 / 船 / 航海など」の両方が無ければ加点しない)

問 2(2) 12 点

※ [指定語句] 干ばつ 国際価格 自給用 輸出用 4 つ全て 下線付き で使用

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。
下線の付け忘れは、複数あっても「1 問につき 1 点」のみ減点する。

モノカルチャー経済体制のもとで、輸出用の商品作物の生産が優先され、自給用の食料生産は発達しなかった。そのため、干ばつの発生や商品作物の国際価格下落などにより、食料の生産も輸入も困難な状況が起きやすくなった。

【加点ポイント】

①<2 点> 【栄養不足人口が多い国の特徴】

○モノカルチャー経済である / 特定の一次産品 (輸出用作物) の輸出に依存した経済である

②<6 点 (3 点×2)> 【栄養不足人口が多い理由】

○輸出用作物の栽培が優先される / 商品作物の栽培が優先される →3 点

○自給用の食料生産が発達しない / 自給用作物が十分に栽培できない →3 点

③<4 点 (2 点×2)> 【①②の影響】

○干ばつの発生により (自給用・輸出用) 食物の生産ができない時がある →2 点

○商品作物 (輸出用作物) の国際価格の下落により食料輸入が困難になる

/ 商品作物 (輸出用作物) の国際価格により国の経済が左右される →2 点

問 3(2) 8 点

先端技術産業に不可欠な資源だが、埋蔵量が乏しい、抽出が難しいなどの理由から、レアメタルと呼ばれる。Yでは、それらの鉱山利権が武装勢力の資金源となり、内戦長期化の一因となった。

【加点ポイント】

※問 3(1)の正否は問わない。

①<2 点> 【表の鉱物の総称】

○レアメタル／希少金属

②<2 点> 【用途の特徴】

○先端技術産業に不可欠

／電子工業／半導体（集積回路／I C）／合金／超電導 などに使われる

③<2 点（1 点×2）> 【流通面の特徴】

○埋蔵量が少ない →1 点

○抽出が難しい／精錬が難しい／純粋な金属として取り出すのが難しい →1 点

（×「採掘が難しい」）

④<2 点（1 点×2）> 【Y国での悪影響】

○武装勢力の資金源となる／鉱山が武装勢力の支配下にある／鉱山の利権が紛争源になる →1 点

○内戦が長期化する／紛争が続く／国内情勢が不安定となる →1 点

問 3(3) 8 点

大陸全体が台地状の地形で、コンゴ川下流には急流や滝が多い。そのため、外洋からの遡行が困難で、原燃料や製品の海外との通商に利用できない。

【加点ポイント】

※問 3(1)の正否は問わない。

①<2 点> 【アフリカ大陸の地形の特徴】

○アフリカ大陸は台地状（テーブル状）の地形である

②<2 点> 【①の河川への影響】

○下流に急流や滝が多い／海洋から内陸までの間に滝（急流）がある

③<2 点> 【②の影響】

○外洋からの遡行が困難／貿易船が内陸まで行けない

④<2 点> 【③の工業化への影響】

○河川交通（コンゴ川）が海外との通商に使用できない

／原燃料や製品の輸送に河川（コンゴ川）が利用できない